

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環 境 対 策 特 別 委 員 会	会 議 場 所 第 3 委 員 会 室	
		担 当 職 員 藤 村	
日 時	平 成 2 4 年 1 月 2 4 日 (火 曜 日)	開 議	午 前 1 0 時 0 5 分
		閉 議	午 前 1 1 時 3 2 分
出 席 委 員	明 田 ◯ 苗 村 中 村 菱 田 湊 日 高		
理 事 者 出 席 者			
傍 聴 者	市 民 - 名	報 道 関 係 者 - 名	議 員 1 名 (酒 井 議 員)

会 議 の 概 要

1 委員長あいさつ

2 日程説明

3 議 題

CO2 削減について～ゴミ減量化の観点から～

< 明田委員長 >

これまでに 6 回委員会を開催して検討してきた。ゴミ減量化について、特に生ごみについて提言に結びつけられたらいいと思う。それぞれの意見を聴かせていただきたい。

< 苗村副委員長 >

これまで CO2 削減をゴミ減量の観点からやっていくことで取り組んできた。常任委員会との兼ね合いもあったが進んでいない点ということで特別委員会としては生ごみについて深めていきたい。桜塚工場にお金がかかるのでなお一層のゴミ減量化に取り組む必要性が執行部からも出されている。今できる提言、提案を特別委員会としてまとめていきたい。

< 明田委員長 >

生ごみ減量についての資料を基に意見があれば出されたい。

< 菱田委員 >

前回も言ったが常任委員会との違いをどうすべきか。ゴミ問題を特別委員会で取り組むことがわからない。常任委員会でどうしてもできない部分があるから特別委員会ですという話が今一つ納得いかない。前回、副委員長から特別委員会で特化してという話があったが、もう少し掘り下げた話を聞かせていただき、このまま進めるか方向転換するか決めてはどうか。

< 中村委員 >

常任委員会が生ごみに対して具体的にどんな取り組みをしているのかわからない。そのあたりを明確に。

< 事務局 >

資料を参考に常任委員会の取り組みを説明。

< 苗村副委員長 >

ごみ減量、資源化の話はあったが、生ごみのことまでは触れられてこなかった。生ごみも含めてごみ減量化に取り組み、生ごみについて掘り下げていくことは第4回目の委員会で了解済みなのに、話が堂々巡りしている。実際の取り組みについては難しいこともあるかもしれないが、提言、提案として出すことが大事。各家庭の生ごみ処理機の普及は取り組んでいるが広がらない。もう一步進めて地域での処理の取り組み、市域全体での取り組みがあると思うが費用の問題もあり、なかなかそこまではいかない。しかし、そういうことも含めてこれからの取り組みとしての提言ができないか。

< 明田委員長 >

1年というのとあと1、2回しか特別委員会も開けない。大きなテーマのCO2削減の中の生ごみ処理ということで進んできた。これまで踏み込んだ意見も出てきているのでそれらを抽出してまとめていけばどうか。

< 湊委員 >

減量化はいいことだが、具体的なアイデアが全く出ない。常任委員会とはダブっても、並行してやっていけばよいが提言としてまとまるか。南丹市のように徹底した分別をするしかないが、個人へのリスクが大きい。はたしてそれができるか。

< 明田委員長 >

ここで合意が図れれば、そのように取り組まれない、何年以内に市の考え方を示されたいということの提言でもいい。

< 湊委員 >

それは、前期の環境対策特別委員会でも言ってきた。

< 苗村副委員長 >

おっしゃる通りで、ごみ減量には分別しかない。不燃物は少し分別が厳しくなってきたが、燃えるごみは他の自治体に比べてもかなりゆるい。出せば回収してもらえる。今後、桜塚の基幹改良事業に30億円かかる。これだけの経費がかかり、減量化するしかないことを提言の中に入れる。プラスチックについては常任委員会でも指摘し、主管課も来年度から取り組もうとしている。常任委員会で手が付けられていない生ごみについて今後の方向性を織り交ぜながら提言できればいい。

< 湊委員 >

市民にご苦労いただくことになる。船井衛管では細かく袋を分けて分別しているが1台のパッカー車が一緒に収集していく。そのあと、どうしているのか調べてみてほしい。クリーン亀岡推進会議はどんな活動をしているのか。

< 苗村副委員長 >

各事業所の取り組み等を市民へ啓発をしている。講演会でいろんな取り組みの紹介をする等啓発活動である。

< 明田委員長 >

各自治会からも委員が出ており、環境事業課の事業を広く推進する組織。市民ぐるみの活動とするための組織体と認識する。

< 日高委員 >

ごみのことは常任委員会で現地視察や勉強もしているので特化してすることがない。町田市も必要に迫られてやっている。環境事業課に必死さがないので提言しても聞き置く程度で実施につながらないのではないかな。

< 苗村副委員長 >

それは逆と思う。来年度一部実施予定のプラスチックの分別収集もずっと言ってきたこと。ここまで来るのにかなりの年数が経っているが大事な一步である。議会

が後押しすると担当課も実施しやすくなることもある。言っても仕方がないことはない。

< 日高委員 >

今までずっと言ってきた。これ以上言うことはない。

< 菱田委員 >

副委員長の言われることは常任委員会でこれまでずっと言ってきたこと。地域でモデルケースとして実施するから応援するというのなら特別委員会できる。一般論になると担当部局もいまさらということになる。生ごみならもっと掘り下げてやらないといけない。地域で取り組むのを特別委員会で応援するというなら意義がある。

< 苗村副委員長 >

菱田委員の考えは少し違うと思う。常任委員会でも取り組んできたが、提言という形では議会としてやってきていない。22 年度決算の附帯決議がされたが、最近の動き。こういうことをしながら生ごみ減量化が進めていけたらと思う。

< 湊委員 >

実際生活するとごみはいやでも出てくる。生ごみでもいらない部分を捨てている。減らしようがあるのか。

< 明田委員長 >

まだまだ工夫の余地はある。焼却場にキャパがあるからそれほど分別しなくても燃やせている。切羽詰まった思いが行政になかったのではないか。提言することによって行政が取り組むようになるのではないか。

< 湊委員 >

生ごみはどのようにして出すのか。

< 苗村副委員長 >

分別しなくても引き取ってくれるから努力しない。自分も生ごみ処理機を使用していたが壊れてしまってからそのまま出している。分別するシステムがあればできるが今ない。行政としてそのシステムを作る必要があるのではないか。

< 湊委員 >

田んぼのあるところでないとなんて無理では。

< 苗村副委員長 >

本市は条件的には恵まれているはず。

< 明田委員長 >

今、田んぼの話が出たが、そういうところから実証実験していけばどうか。

< 菱田委員 >

わけのわからないごみをほり込まれても困る。

< 中村委員 >

山間部も同じように生ごみは出されているのか。自分の田んぼにほかせば少ないはず。

< 菱田委員 >

農家の立場で言うのごみではなく肥料でなければならない。土づくりセンターの件も整理しないと生ごみ捨て場になってしまう。今でこそうまく稼働しているが、何年か前までは家畜糞尿捨て場になってしまっていた。

< 苗村副委員長 >

土づくりセンターの利用ができないならほかのことも考えられる。

< 菱田委員 >

市民活動をバックアップせよということならいいが、一般論ならこれまで言ってきたことに変わりがなく、踏み込めない。

< 明田委員長 >

市民負担、協力の側面が大きく、そういうことは言っていかなければならない。

< 菱田委員 >

一般論だけではなく、一步踏み込んで。

< 中村委員 >

手法は限られてくる。出すのを抑えることになるがコンポストか電動処理機ぐらいしかないのではないか。それも実際に使用した人がダメと言っているのに勧められない。段ボールコンポストも長続きしない。一緒に体験しない限り机上の話になって前に進まない。

< 明田委員長 >

具体的な研究をしてほしいと特別委員会を出せばおそらく取り組まれるだろう。

< 湊委員 >

資料の町田市や久喜市の説明を。

< 事務局 >

地域での取り組みの生ごみ処理機の説明。

< 明田委員長 >

久喜市は伐採した樹木も混ぜていた。

< 日高委員 >

家庭用処理機は水分が多いからすぐ壊れる。

< 湊委員 >

地域拠点の処理機をおいてくれるところがあるか。

< 菱田委員 >

これらの取り組みの先進地は岐阜県土岐市。意識の高い主婦が始められた。何人が集まって、それを行政も応援した。誰か核になる人が必要。そういう人を応援して生ごみの減量化につなげていこうというのならいい。

< 中村委員 >

具体的にはどんなことをされたのか。

< 菱田委員 >

EM で生ごみ処理をし、それを地域に広げて、それを理解する農家と提携した。私たちがするから応援してくれというならいいが行政がするように言うのはどうか。

< 苗村副委員長 >

分別は市民理解がなければできない。市民からの取り組みを応援して市の施策としていくのがベストと思うが、行政からの取り組みとして働きかけも大切。

< 湊委員 >

常任委員会で学校給食の食べ残しのことを聞いたことがあるか。大きい市は相当の量が出るが、それが大幅に減ったというニュースがあった。なぜ減ったかというおいしい給食をだしたらしい。少し料理法を変えた。事業所の生ごみも桜塚に搬入されていると聞く。確認しておいてほしい。

< 菱田委員 >

学校給食の食べ残しを減らす方法は2つある。一つは湊委員が言われた方法。もう一つは自分たちで処理をさす。生ごみを分別し、学校で堆肥化し、学校菜園等で使う。そういうことをするともったいないことがわかり食べ残しをしなくなる。それを提言に入れていけばどうか。具体的になる。教育委員会へも言いやすくなる。

< 苗村副委員長 >

学校も嫌がるかもしれないが、どこかが言わないとできない。

< 明田委員長 >

1年でまとめをする。提言をすることでもいいか。30億円の経費負担を少しでも減らせればいい。

— 了 —

< 苗村副委員長 >

学校給食の件が出されたが、モデル地域での取り組みも入れては。やってみて改善していけばいい。食品残渣のリサイクルをモデル地域で取り組み、市が応援する。それと学校給食の残菜の肥料化を教育委員会で取り組まれるよう提言。それと市民のいろんな取り組みの応援。湊委員の言われた料理の工夫を各家庭にも紹介等いろいろ出せばどうか。

< 明田委員長 >

今まで出た意見をまとめていくが、ほかにもあれば出されたい。

< 湊委員 >

学校の件は取り組みやすい。

< 日高委員 >

小学校に生ごみ処理機を設置するなら周辺地域の人にも協力を求める。先進地域を決めるのも難しいし、設置場所の問題もあるので小学校から進めてそれをモデルケースとすればいい。

< 湊委員 >

子供から親へと広げていくのがいいかもしれない。

< 日高委員 >

少しでも早いモデル地区での実施につながるのでは。

< 湊委員 >

他に同様の事例はあるか。

< 菱田委員 >

調べたら他にもある。

< 湊委員 >

学校でやると効果がある。

< 明田委員長 >

私もコンポストを使用しており、いろいろな方法がある。正副委員長と事務局で文言をまとめてみる。

< 事務局 >

これまでの確認。提言を出す。具体的には学校での取り組み。市民の取り組みの応援。モデル地域設定での取り組み。

< 日高委員 >

大型生ごみ処理機の経費と効果を試算しておかなければならない。

< 苗村副委員長 >

それは次の段階。

< 日高委員 >

ある程度試算してもらって可能かどうかを考えることはしないか。

< 菱田委員 >

できるところから始めてもらって少しずつバージョンアップしていけば。

< 湊委員 >

一般市民にそういうアンケートはされた経緯はあるのか。もしないのなら一度市としてそういう調査をする必要があるのではないか。そうすれば意識も変わってくるかもしれない。もっといい考えもあるかもしれない。

< 苗村副委員長 >

それは大事なこと。

< 明田委員長 >

それも提言に加える。

< 苗村副委員長 >

市民の意向調査、合わせて提案を聴くことも提言の中に入れれば。

< 湊委員 >

アンケートをすれば提案が出てくる。しかしどんな方法でアンケートが取れるか。

< 明田委員長 >

クリーン亀岡推進会議の協力を求めればいい。

以上の意見をまとめて、事前に見ていただくことにする。

< 事務局 >

資料に基づき、環境事業課の来年度の取り組み予定の説明。

< 明田委員長 >

プラスチックごみの分別を提言の中に入れてはどうかという意見があるがどうか。

< 苗村副委員長 >

提言の前段で一層の推進を求めると同時に生ごみについて盛り込めばいい。

< 明田委員長 >

常々、何か新しい取り組みを始めるよう言ってきており、一つの契機になっていると思う。前段で触れておきたい。

— 了 —

提言案ができれば次回委員会までに見ていただくようにする。

4 その他

○ 次回の日程

< 明田委員長 >

次回は2月21日(火)13時30分かどうか。

— 了 —

散会 ～ 11 : 32